

～みんなで政党を作ろう～



参政党 札幌市政改革委員(西区)

八軒
育ち!

なかの まなぶ

中野まなぶ

さんをご紹介します

新しい政治への挑戦! 地域から日本を変える

今号では、札幌市役所での29年間の勤務経験を基に、政治を「他人事から自分事へ、そして未来事に」をモットーに、札幌市西区で政治活動を開始された参政党の札幌市政改革委員(西区)の「中野まなぶさん」を特集します。

なぜ、51歳で札幌市役所を退職してまで政治家を志したのか

私が社会に違和感を覚え、学び直しを始めたのは約20年前のことです。札幌市役所で29年間、市民生活の現場に身を置きながら、まじめに働く人が報われにくい空気、未来を語りにくい閉塞感が、社会にじわじわと広がっていくのを感じてきました。日本人は、本来勤勉で、思いやりがあり、責任感がある。誰もが現場に向き合い、社会を支える力を持っている。それなのに、なぜこの国は一向に良くならないのか。そう自分に問い続け、歴史・経済・政治・教育を、自分の頭で学び直してきました。私がたどり着いた結論、それは、グローバリズムの潮流に翻弄され戦争へと突入し、敗戦後の占領政策によって形づくられた戦後体制こそが、日本社会の病巣の根源であるということでした。みなさんは、戦勝国アメリカの「降伏後における初期対日方針」をご存じでしょうか。その究極の目的として「日本国が再びアメリカの脅威にならないことを確実にすること」が掲げられていました。6年8か月に及ぶ占領期間に進められた政策

は、すべてその目的を達成するための手段にすぎません。我が国の最高法規である憲法の制定も、その手段の一つであったということになります。このアメリカ製の憲法をいただき続けている限り、日本は真の独立国にはなれない。戦後80年経った今も、我が国にアメリカ軍が駐留していることがその証左です。むしろ、それらの問題が本気で論じられない言語空間こそが、日本社会の真の闇を示しています。つまり、日本は未だ戦勝国の手のひらの中にあるということです。

政治を「他人事から自分事へ、そして未来事に」

このままの日本を次世代に残してしまえば、子どもたちの未来を守れない。私は札幌市役所を中途退職し、本気の覚悟をしました。政治を「他人事から自分事へ、そして未来事に」をモットーに、先陣を切って道を拓き、次の世代が自ら立ち上がる土壌をつくり、草の根から社会の空気を変えるため、熱く! 熱く! 札幌・西区から責任ある行動を重ねていきます。皆さま、何卒ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

参政党 札幌市政改革委員(西区) 中野まなぶ



地域から日本を変えるために、
中野まなぶさんの力が必要です。

神谷 宗幣 参政党代表 / 参議院議員

◎参政党のポスターを
掲示して頂ける方の
募集をしています。

ポスターを掲示して頂ける方は、
参政党HP(参政党事務局)まで
お問い合わせください。



◎参政党では様々な活動、
情報を発信しています。

ホームページで参政党をチェック!

HPはこちらから

◎参政党とは ◎党員募集中! ◎参政党の政策 ◎公認候補予定者



<https://www.sanseito.jp/>